

私たちはいつどうやって

日本人になったのか

小学校
それは小さな社会

無料上映会

〔日時〕 2025年11月15日 (土)

ありふれた公立小学校がくれる、新たな気づき、本作から生まれた短編版『Instruments of a Beating Heart』がアカデミー賞「短編ドキュメンタリー映画賞」にノミネート！日本人監督による日本題材の作品では初の快挙！



3
会
場
で
開
催

第一部 都留市 都の杜うぐいすホール
(小ホール) 300人
9時開場 10時～12時

第二部 南アルプス市 若草生涯学習センター
(若草ホール) 250人
13時開場 14時～16時

第三部 韮崎市 東京エレクトロン韮崎文化ホール
(大ホール) 500人
17時開場 18時～20時

- ① 幼児連れでも参加可能です。
- ② 参加者が定員を上回った場合は、御希望通りにならないこともあります。あらかじめ御了承ください
- ③ お申込みはQRコードか、URLからお願いします。8月25日から受付開始します。
- ④ 全席自由席です。

お申込みURL

<https://qr.quel.jp/om/fc22a1>

お申込みQRコード

フォーム申し込みは、先着順なので御留意ください。



主催 | 山梨県PTA協議会

後援 | 山梨県教育委員会





6歳児は世界のどこでも同じようだけれど 1 2歳になる頃には日本の子どもは“日本人”になっている

第97回アカデミー賞短編ドキュメンタリー部門ノミネート作品

監督・編集:山崎エマ

小学校 ～それは小さな社会～

2023年/日本・アメリカ・フィンランド・フランス/カラー/99分/5.1ch

<あいさつ>

日本では、当たり前だと思っていた小学校での日常が、宝物のような日々だった事を気づかせてくれる映画です。子どもたちの直向きなやりとりに心を揺さぶられ、自然と涙があふれてきました。家族みんなでこの映画を見てほしいと思います。夕飯時に家族みんなで映画について、いろいろな対話ができたら素敵ですね。

山梨県PTA協議会役員代表

この映画は、教職を志す方には子どもの成長に寄り添う喜びを実感し、現職の先生方には試行錯誤の日々への自信を取り戻し、保護者の皆様には、子ども時代の自分と我が子を重ね、温かく注がれたまなざしを思い起こすきっかけになることでしょう。日本の教育が変わらなければならないことは確かにあります。賛否両論あっても当然。多くの方に観ていただき、一緒に語り合いたいです。

山梨県教育委員会教育委員代表

<映画推薦コメント>

今日、妻と息子と、3人で見てきた話題のドキュメンタリー映画「小学校それは小さな社会」。劇場かなり混んで。中身は、都内、公立小学校の一年を追った話。大きな事件もなく。ナレーションもつけず、ただ、淡々と。でも、なぜか、これが、面白い。共感と発見、確認。そして沁みる。日本の小学校、あらためてすごいな。ありがとうと言いたくなる。鈴木おさむ

グローバルな国際社会の中で日本企業がより活躍するためには、我々の強みを理解することが大事。日本の小学校教育にはそのヒントが詰まっていることをこの映画は気づかせてくれた。

新浪剛史 /
サントリーホールディングス代表取締役社長

日本人の「和」の強さの秘密がこの映画に！
子供達が成長していく力強さと、先生方の眼差し。
この映画を心地よく思う私もまた、日本的なのだろう。
そして恐らくあなたも。六代目神田伯山/講談師

心動かされました。まずは、子どもたちが壁に出会い、乗り越えてゆくまぶしい瞬間に。そして、教育現場の「今ここ」に見えてきた小さな物語たちを編み上げるように、子どもたちが育つ場所をできるだけ総体的に捉えようとした、この作品の根気強く豊かな視点にもです。沢山の人の見てほしいし、そのあと一緒に考えたいです。河合優実/俳優

左記からも著名人の
推薦コメントを御覧頂けます！

この上映会は、多くの企業様・団体様・個人様の
ご支援とご協力のお陰で開催出来ることになりました。関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

お問合せ山梨県PTA協議会: E-mail info@nasi-pta.chu.jp TEL 055-228-1342

©CinericCreative/NHK/Pystymetsä/PointduJour

